

No.	作家名	作品名	制作年/雑誌刊行年	技法・材質等	サイズ(cm)	所蔵先など
48	中澤弘光(誌面)	雑誌「明星」《巳の初春》	1905年	木版、紙	25.4×18.3	当館(青木文庫)
49	和田英作(誌面)	雑誌「明星」《馬》	1906年	木版、紙	26.0×18.5	当館(青木文庫)
50	長原孝太郎(表紙)	雑誌「明星」	1907年	印刷物	26.0×18.8	当館(青木文庫)
51	和田英作(表紙)	雑誌「明星」	1908年	印刷物	26.0×18.8	当館(青木文庫)
52	森田恒友(表紙)	雑誌「方寸」《采芹》	1907年	印刷物	30.5×22.9	個人蔵
53	山本鼎(表紙)	雑誌「方寸」《西河岸》	1907年	木版、ジंक版、紙	31.0×22.9	個人蔵
54	平福百穂(表紙)	雑誌「方寸」《芝居の馬》	1908年	石版、紙	30.1×23.0	個人蔵
55	森田恒友(誌面)	雑誌「方寸」 《朱の都市、緑の海原》	1910年	木版、凸版、紙	30.5×23.1	個人蔵
56	青木繁(表紙)	雑誌「方寸」 《わたつみのいるこの宮》	1911年	印刷物	30.1×22.4	個人蔵
〈新収蔵作品〉						
57	木田金次郎	白百合	1938年頃	油彩、カンヴァス	45.5×33.8	当館
58	小野絵麻	エデン	1965年	油彩、カンヴァス	89.7×59.2	当館
59	小野絵麻	鳥合の中の肖像 (現代日本記)	1984年	油彩、カンヴァス	145.5×114.5	当館
60	上條陽子	さかな人間	1987年	油彩、カンヴァス	61.0×73.0	当館
61	上條陽子	室内	1987年	油彩、カンヴァス	91.5×117.0	当館
62	瓜南直子	ムーンダンス	2011年	岩彩、紙(四曲一隻)	117.4×364.0	当館

第三章 新帰朝者と浪漫派

浅井忠ら明治美術会の画家たちが、堅実な写実に根付いた堅牢な絵画を築き上げていった一方で、フランスやイタリアに留学し直接本場で油彩画を学んできた日本人画家たちが帰国して移植に努め始めました。黒田清輝はその代表的な画家で、1896(明治29)年に藤島武二らと白馬会を結成し、さらに日本画一辺倒であった東京美術学校に西洋画科を設けて若手の指導にあたり



坂本繁二郎《棕呂の見える風景》1903年 水彩、紙 当館蔵

新収蔵作品について

神奈川県立近代美術館では、昨年度も多くの新収蔵作品が入りました。そのなかから6点を選んで展示いたします。まず、有島武郎の小説『生れ出づる悩み』のモデルとして知られている洋画家・木田金次郎(1893-1962)の1938年頃の作品と思われる《白百合》です。画家の生き生きとした筆触が、百合の花に生命力を与えています。小野絵麻(1917-1997)は、岡山県出身の洋画家で、シュルレアリスムの影響を受けて独特の幻想的なイメージ

ます。そして、明治後期になると青木繁など西洋の象徴主義の感化を受けた浪漫派の画家たちが、自由な創造力を発揮して印象派風の絵画とはまた別の新しい絵画を生み出していきました。それらは大正時代に現れる、より自由で革新的な絵画運動などに引き継がれていくことになります。



青木繁《真・善・美》1905-1906年頃 鉛筆、紙 当館蔵

の世界を構築しました。上條陽子(1937-)は、女性で初めて安井賞を受賞した画家で、出品作品は表現主義的な画風を帯びながら生の躍動感をよく表している初期の代表作です。瓜南直子(1955-2012)は、鎌倉で創作活動を続けた日本画家で、独特のファンタスティックなイメージを作り上げ、《ムーンダンス》はその真骨頂といえる作品です。

明治の美術コレクション展

ワーグマン、五姓田義松そして黒田清輝
神奈川県立歴史博物館所蔵作品とともに

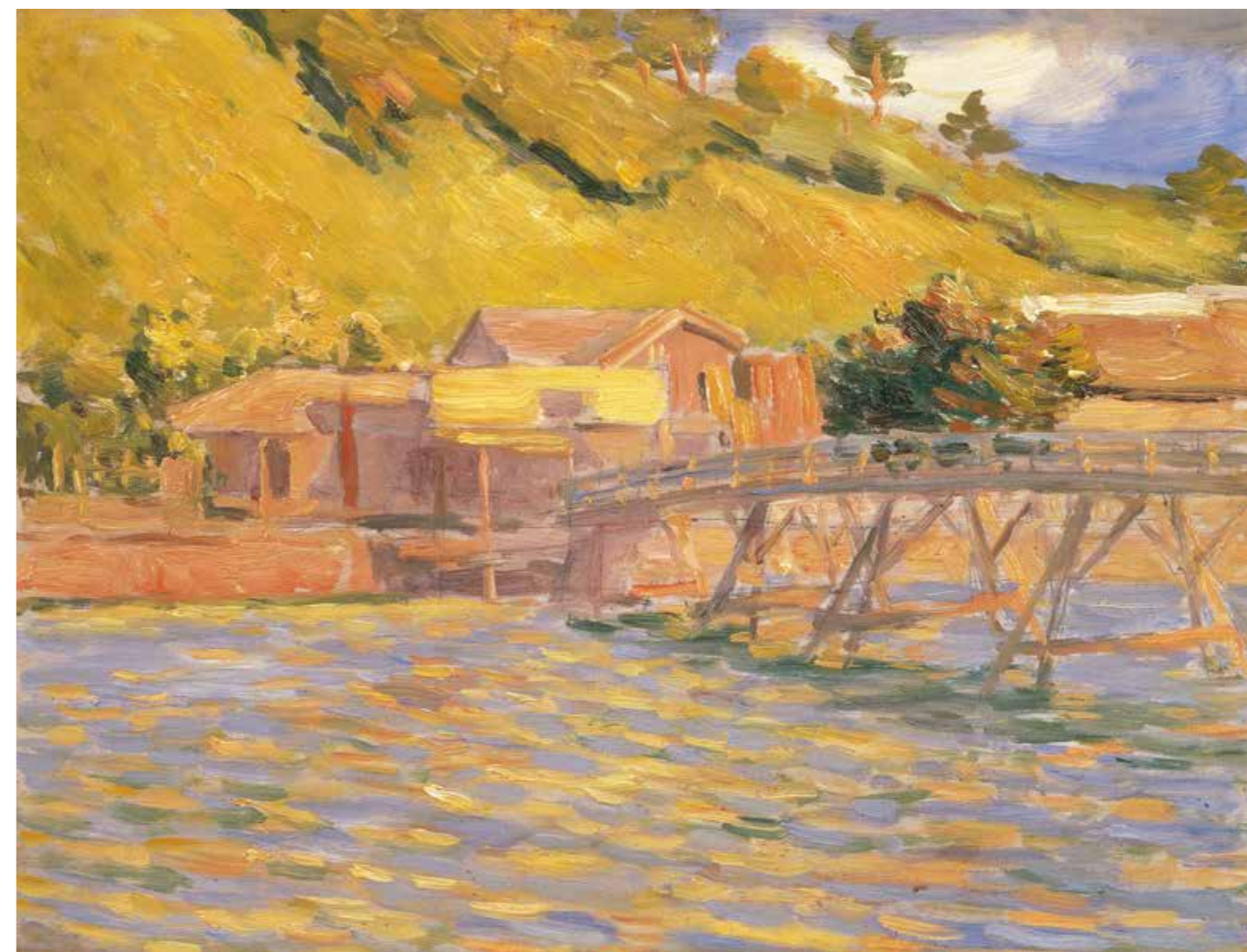
Museum Collection 1 : Art of the Meiji era
— Charles Wirgman, Yoshimatsu Goseda and Seiki Kuroda —
With works from Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History



2016年4月8日[金]—5月15日[日]

「原田直次郎展」と同時に開催する当館所蔵のコレクション展です。明治時代に活躍した洋画家の原田直次郎(1863-1899)に関連して、明治期の作品に焦点をあて展示いたします。明治初期の日本洋画に大きな影響を与えたイギリス人画家チャールズ・ワーグマン(1832-1891)の作品をはじめ、彼から薫陶を得た高橋由一(1828-1894)や五姓田義松(1855-1915)の作品を神奈川県立歴史博物館と当館の所蔵品のなかから厳選して明治の洋画の流れを通観

します。特に五姓田義松は、昨年、県立歴史博物館で大回顧展が開催され大きな話題を呼んだ画家です。この時代、日本洋画壇を牽引した浅井忠(1856-1907)や松岡壽(1862-1944)ら堅実な写実に根差した明治美術会の画家たちが活躍し、フランス留学で学んだ印象派風の光溢れた画面作りを試みた黒田清輝(1866-1924)らも登場します。そして、明治後期の浪漫派が現れ、大正期の自由を謳歌する絵画に結び付いていきます。



黒田清輝《逗子五景》(五点連作のうち四) 1898年頃 油彩、板 当館蔵



黒田清輝《逗子五景》 1898年頃 油彩、板 当館蔵

No.	作家名	作品名	制作年／雑誌刊行年	技法・材質等	サイズ(cm)	所蔵先など
1	川上冬崖	山水図	制作年不詳	紙本墨画	132.8×57.2	当館
2	川上冬崖	花卉図	1870年	紙本墨画	100.6×43.8	当館（青木文庫）
3	チャールズ・ワーグマン	宿場	制作年不詳	油彩、カンヴァス	53.0×81.0	神奈川県立歴史博物館
4	チャールズ・ワーグマン	街道	1872年	油彩、カンヴァス	53.0×81.0	神奈川県立歴史博物館
5	チャールズ・ワーグマン	妻カネ	制作年不詳	水彩、紙	24.9×17.5	当館
6	チャールズ・ワーグマン	二人の日本人女性	制作年不詳	水彩、紙	24.9×17.4	当館
7	高橋由一	能面図	制作年不詳	油彩、カンヴァス	57.0×92.0	神奈川県立歴史博物館
8	池田亀太郎	川鱒図	制作年不詳	油彩、板	94.0×29.0	神奈川県立歴史博物館
9	五姓田芳柳	芭蕉と月	制作年不詳	絹本着彩	129.0×60.0	神奈川県立歴史博物館
10	五姓田芳柳	西洋老婦人像	制作年不詳	水彩、絹	80.0×66.0	神奈川県立歴史博物館
11	五姓田芳柳	井田譲像	1877～1888年	絹本着彩	119.0×90.0	神奈川県立歴史博物館
12	五姓田芳柳	明治天皇像	1879年	絹本着彩	39.1×27.0	当館（寄託）
13	五姓田芳柳	墨田河畔	1885年	絹本着彩	109.0×112.0	神奈川県立歴史博物館
14	五姓田義松	老母図	1875年	油彩、カンヴァス	52.0×45.0	神奈川県立歴史博物館
15	五姓田義松	自画像	1875年頃	水彩、紙	24.0×17.0	神奈川県立歴史博物館
16	五姓田義松	五姓田一家之図	制作年不詳	油彩、カンヴァス	36.0×48.0	神奈川県立歴史博物館
17	五姓田義松	制作風景	制作年不詳	水彩、紙	25.0×36.2	神奈川県立歴史博物館
18	五姓田義松	台所	制作年不詳	水彩、鉛筆、紙	22.9×33.4	神奈川県立歴史博物館
19	五姓田義松	井田磐楠像	1882年	油彩、カンヴァス	46.8×37.7	神奈川県立歴史博物館
20	五姓田義松	クリュニー美術館にて	1884年	油彩、カンヴァス	73.0×54.0	当館（寄託）
21	五姓田義松	港（横浜風景）	1891年頃	油彩、カンヴァス	50.0×60.5	当館
22	五姓田義松	山の宿	制作年不詳	油彩、カンヴァス	51.0×62.0	神奈川県立歴史博物館
23	五姓田義松	洛西風景	1907年	油彩、カンヴァス	49.0×63.0	神奈川県立歴史博物館
24	二世五姓田芳柳	男女の肖像	制作年不詳	水彩、絹	90.0×78.0	神奈川県立歴史博物館

第一章 チャールズ・ワーグマンや五姓田義松らの芸術

幕末から明治期に新しい絵画技法である油彩画に関心を抱き、横浜居留地にいたイギリス人報道画家チャールズ・ワーグマンに師事した高橋由一や五姓田義松などは、東京から横浜まで通って油彩画を学んでいます。江戸時代から油彩画を学ぼうとする人たちがいたわけですが、明治維新を経て一層、日本人の洋画に対する関心が高まり、横浜を中心にその絵画制作と研究が熱を帯びていきました。ここでは、ワーグマンや弟子筋に当たる高橋由一、五姓田義松らの絵画を中心に紹介します。

五姓田義松《老母図》 1875年
油彩、カンヴァス
神奈川県立歴史博物館蔵



チャールズ・ワーグマン《街道》 1872年 油彩、カンヴァス 神奈川県立歴史博物館蔵



五姓田義松《井田磐楠像》 1882年
油彩、カンヴァス
神奈川県立歴史博物館蔵

No.	作家名	作品名	制作年／雑誌刊行年	技法・材質等	サイズ(cm)	所蔵先など
25	山本芳翠	富士山	制作年不詳	水彩、絹	147.0×106.0	神奈川県立歴史博物館
26	山本芳翠	馬頭衛	制作年不詳	鉛筆、紙	18.5×11.4	当館
27	不詳	西洋童子羽織袴図	制作年不詳	絹本着彩	50.0×28.4	当館（寄託）
28	小林清親	仁王門	1877年頃	油彩、カンヴァス	55.0×76.0	当館
29	高橋源吉	樹	制作年不詳	水彩、紙	33.0×24.0	当館
30	アッキーレ・サンジョヴァンニ	牛	制作年不詳	油彩、紙	21.6×30.0	当館
31	本多錦吉郎	中禅寺湖夜景	1880年頃	油彩、カンヴァス	39.0×60.0	当館
32	本多錦吉郎	相州鎌倉由井濱	1896年	水彩、紙	24.0×34.2	当館
33	浅井忠	河合辰太郎肖像	1899年頃	油彩、カンヴァス	54.5×42.5	当館
34	中村不折	根岸御行松附近夜景	1900年頃	油彩、カンヴァス	93.0×75.0	当館
35	松岡壽	工部大学校風景	1878年	油彩、厚紙	24.8×29.9	当館
36	松岡壽	静物	1880－1888年	油彩、カンヴァス	57.0×35.5	当館
37	松岡壽	運河沿いの町	1883年	油彩、カンヴァス	17.7×28.5	当館
38	松岡壽	童児	1887年	油彩、カンヴァス	40.8×33.0	当館
39	坂本繁二郎	棕呂の見える風景	1903年	水彩、紙	50.0×66.5	当館
40	黒田清輝	逗子五景	1898年頃	油彩、板	各23.9×32.3	当館
41	藤島武二	T氏肖像	1909年	油彩、カンヴァス、ボード	35.0×26.0	当館
42	久米桂一郎	裸婦	1886-1893年頃	木炭、紙	60.0×42.5	当館
43	川村清雄	室内	1899年頃	油彩、板に紙	35.2×27.4	当館
44	伝 藤雅三	不忍池	1879年	油彩、カンヴァス	58.0×85.2	当館
45	青木繁	真・善・美	1905-1906年頃	鉛筆、紙	14.6×5.3 14.5×5.4 14.6×5.8	当館
46	南薫造	英国婦人像	1909年	油彩、カンヴァス	40.5×29.9	当館
47	藤島武二(表紙)	雑誌『明星』	1901年11月	印刷物	26.0×19.0	当館（青木文庫）

第二章 工部美術学校を経て明治美術会へ

洋画を学ぶというと、横浜に住む西洋人画家のもとへ学びに行った高橋由一や五姓田義松のような人たちもいましたが、国が率先してお雇い外国人から学生に絵を学ばせようとしたことも事実です。1876(明治9)年に創設された工部美術学校では、フォンタネージらが招聘されて、浅井忠や松岡壽らが洋画を学んでいます。1889(明治22)年に東京美術学校が開校しますが、岡倉天心やフェノロサらの指導の下、日本画が優位性を持ち、洋画を制作していた浅井忠らは洋画排斥運動に抗して洋風美術団体・明治美術会を創立します。そして、時とともに明治美術会は勢力を持ち直して明治期の洋画壇の一翼を担うこととなります。

浅井忠《河合辰太郎肖像》
1899年頃
油彩、カンヴァス
当館蔵



本多錦吉郎《中禅寺湖夜景》 1880年頃 油彩、カンヴァス 当館蔵



松岡壽《工部大学校風景》 1878年 油彩、厚紙 当館蔵